



**社会貢献活動レポート**  
**2010**

Social contribution  
activities report 2010

明日のために、今日はじめよう。  
平和で健全な社会をつくるために、  
コスモ石油は行動しています。

Start today for a better tomorrow.  
Cosmo Oil is striving to build  
a peaceful and healthy society.

企業は、社会の一員です。ですから、企業が発展していくためには、社会から存続を認められることはもちろん、社会が平和で健全であること、地球環境が保全されていることが、その前提条件になります。コスモ石油は、地球と人間と社会の共生を図り、持続可能な発展をめざすことを経営理念に定め、社員や幅広く社外からの参加を促し、社会貢献活動に取り組んでいます。コスモ石油は1993年に、交通遺児の小学生を対象にした自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊(7ページ)」を主催するとともに、社員ボランティアの育成に着手。また2002年には、お客様とともに地球温暖化防止や次世代の環境教育支援に取り組むプロジェクト「コスモ石油エコカード基金(17ページ)」による活動を開始しました。今後も、社員の社会貢献マインドの醸成に努めるとともに、お客様やNPO、支援先とのネットワークを拡げることで、活動の質の向上やフィールドの拡大を図っていきます。

A company is a part of society. In order for the company to grow and develop in society, one natural assumption is that its existence should be recognized by society yet other assumptions are that society is peaceful and healthy and that the global environment is preserved properly. Cosmo Oil's management vision is that it will strive to ensure symbiosis among the planet, humanity and society and to aim at sustainable growth. And it is engaged in social contribution activities by encouraging people both inside and outside the company to join them. In 1993, Cosmo Oil began to host the "Cosmo Waku Waku Camp (Please refer to Page 7 for detailed information), a program providing an opportunity for elementary school children orphaned through traffic accidents to experience nature and started developing volunteers from among its employees to help with the program. In 2002, the company launched the "Cosmo Oil Eco Card Fund project (Please refer to Page 19 for detailed information) including a customer-participating global warming prevention program and an environmental support education program for children. The company will continue striving to grow a voluntary spirit of social contribution in the minds of employees, while broadening its network of customers, NPOs and other supporters to improve the quality of activities and expand the scope of their fields.

1993 ~ コスモわくわく探検隊

- 2002 ~ 子どものための自然アートワークショップ
- 2002 ~ 小学生向け「地球環境ブック」の配布
- 2003 ~ クリスマスカード・プロジェクト
- 2003 ~ 2009 Webコスモ子ども地球塾「エコネッツ」
- 2004 ~ コスモ絵かきっず
- 2005 ~ 2008 コース・フィランソロピー
- 2006 ~ パパとキッズのアートプログラム
- 2007 ~ 2008 ホスピタル・ドリーム・プロジェクト
- 2009 ~ ハッピー・カラー・プロジェクト

子ども・環境・  
社会をテーマ  
にした活動

2002 ~ 熱帯雨林保全プロジェクト

- 2004 ~ 南太平洋諸国支援プロジェクト
- 2002 ~ シルクロード緑化プロジェクト
- 2002 ~ 循環型農業支援プロジェクト
- 2002 ~ 学校の環境教育支援プロジェクト

コスモ石油  
エコカード基金  
による活動

2006 ~ 種まき塾

- 2005 ~ 秦嶺山脈森林回復プロジェクト
- 2003 ~ さとやま学校
- 2003 ~ 野口 健 環境学校
- 2008 ~ 内モンゴル緑化
- 2008 ~ 北タイ山岳地帯共有林地図作成
- 2008 ~ エコキャピンスクール

1995 ~ コスモ アースコンシャス アクト アースデー・コンサート

- 2001 ~ コスモ アースコンシャス アクト ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」
- 2001 ~ コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン
- 2002 ~ コスモ アースコンシャス アクト 野口 健 講演会
- 2004 ~ インターネットムービー「いま、私たちにできること」

環境  
メッセージの  
発信

Contents

- P 03 社長メッセージ
- P 04 コスモ石油グループ経営理念
- P 05-16 子ども・環境・社会をテーマにした活動
- P 17-22 コスモ石油エコカード基金による活動
- P 23-24 環境メッセージの発信
- P 25 芸術・文化活動支援  
その他の活動
- P 26 製油所 / グループ会社の活動

コスモ石油は、私が社長に就任した2004年から「CSR経営」を重要な課題として取り組んできました。私たちは、社会から信頼される誠実な企業経営を実践する一方で、社会に利益を還元し「社会から期待される新たな企業価値」を創造していこうとしています。そのためには、「当たり前のことには当たり前」「やっつけはいいことにはやらない」を、社員一人ひとりが自覚する必要があります。なぜなら、CSR経営を推進するのは会社ですが、それを実践するのは一人ひとりの社員だからです。

2008年度からスタートした「第2次連結中期CSR計画」により、CSRの理念がグループ内にも浸透してきました。2007年度より導入した「ボランティア休暇制度」と相まって、環境保護や社会貢献活動などへの社員の自発的な参加も盛んになりつつあります。こういった活動への参加を通じて、社員一人ひとりの社会貢献マインドを醸成することで、本当のCSRが実現できます。

私もこれまでに、富士山の清掃活動や「コスモわくわく探検隊」に参加してきました。仕事を離れた社会貢献活動をすることで、会社がどう見られているかを知り、さまざまなステークホルダーの存在を再認識する機会になりました。ステークホルダーの顔が見えることで、その信頼を裏切ることなく誠実に対峙していく決意を持つことがCSRを実践する一歩となるのです。

現在、コスモ石油グループの社員は全国で3,345人(2010年1月1日現在)としてコスモ系列のサービスステーションは3,761カ所(2010年1月末現在)あります。私たちは、企業として責任を果たし、広く社会に貢献するために、一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業でありたいと考えています。社員が参加しやすい社会貢献活動を全国各地で展開することで、コスモ石油グループの社員一人ひとりが積極的に、継続可能な社会づくりに貢献していきます。



**社員一人ひとりが社会貢献マインドを持った企業をめざします。**

We aim at becoming a company in which each and every employee has a spirit of social contribution.

コスモ石油株式会社 代表取締役社長  
**木村 彌一**  
Yaichi Kimura  
President Cosmo Oil Co., Ltd.

We at Cosmo Oil have worked on an important challenge of "corporate social responsibility(CSR) management" since 2004, when I was named president.

We are managing the company in a sincere manner, for which we hope to earn the trust of society, while trying to create "new corporate values to win expectations from society" by redeeming profits to society. To achieve this, each and every employee needs to become aware that they "do their duty as it should be done" and that they "never do otherwise."

Though the company promotes CSR management, it is individual employees who put it into practice.

The Second Consolidated Medium-Term CSR Plan (starting from FY 2008) is underway, allowing the CSR vision to be widely dispersed in the minds of people across the Cosmo Group. This plan, coupled with the Volunteer Sabbatical Leave program introduced in 2007, has been motivating more and more employees to voluntarily join environmental protection, social contribution, and other activities. Nurturing a concerned spirit for social contributions among employees through their participations in these activities allows the company to realize true CSR management.

I have also personally participated in the "Mt. Fuji cleanup" and the "Cosmo Waku Waku Camp" programs. Being away from work and participating in the social contribution activities provided an opportunity for me to see how the company is viewed by people and to re-recognize the variety of stakeholders that the company has.

Seeing the stakeholders in person allows every participant to renew his / her commitment to doing everything in good faith by living up to the trust they place in us. Joining a social contribution program provides the first step an employee can take to practice CSR on his or her way.

The Cosmo Oil Group currently employs 3,345 people across Japan (as of January 1, 2010) and operates 3,761 directly run and affiliated service stations nationwide (as of January 31, 2010).

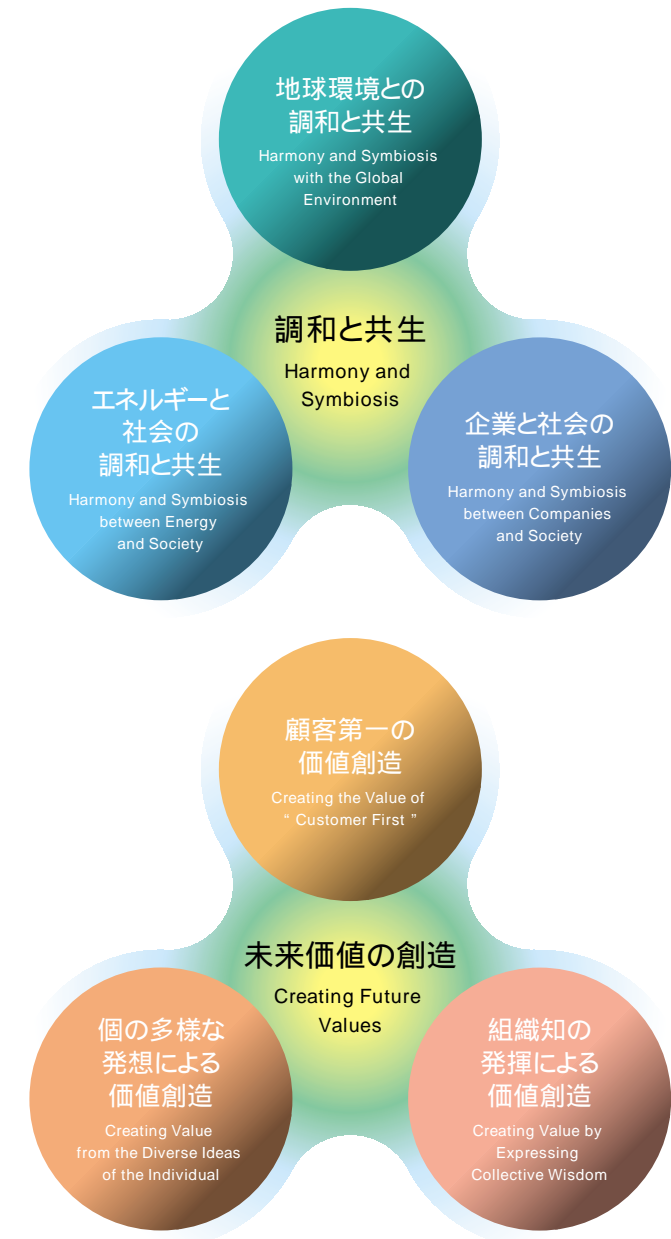
We are committed to assuming responsibility as a good corporate citizen and to being a company in which each employee has a good

spirit of social contribution in order to make contributions to society in various ways.

We will execute a variety of social contribution programs, which employees find easier to attend, in all parts of the country so that all the Cosmo Oil Group employees can make active contributions toward building a sustainable society.

**わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。**

In striving for harmony and symbiosis between our planet, humanity and society, we aim for sustainable growth towards a future of limitless possibilities.



**社会貢献活動のコンセプト**  
Concept of social contribution activity

**未来の社会をつくる子どもたちの啓蒙**  
To educate children who will be part of the future society.

**人間社会が存続するための基盤である地球環境の保全**  
To preserve the global environment - the foundations of a sustainable society.

**平和で心豊かな文化的社会の構築**  
To form a peaceful, considerate and cultural society.

**社会貢献活動の基本方針 (1992年制定)**  
Basic policy of social contribution activity

**コスモ石油としてオリジナリティのある活動を行う**  
Activities unique to Cosmo Oil.

**社員が参加して活動する**  
Full personnel participation.

**経営状況に左右されず長期継続する**  
Lasting presence regardless of our business status.



## 子ども・環境・社会を テーマにした活動

Activities Centered on Children,  
the Environment and Society

健全な次世代育成と社員の  
社会貢献マインドを醸成する  
プログラムです。

NPOや支援先とのネットワークを駆使して、  
活動の環を拡げています。

A program designed to nurture children  
with healthy bodies and healthy minds who  
will be a part of the future society and to grow  
a spirit of social contribution among employees.  
Cosmo Oil utilizes its network of NPOs and other  
supporters to broaden the circle of activities.



## 会社、社員、外部ネットワーク による活動の広がり

活動を主催し、  
プログラムづくりのノウハウを蓄積。

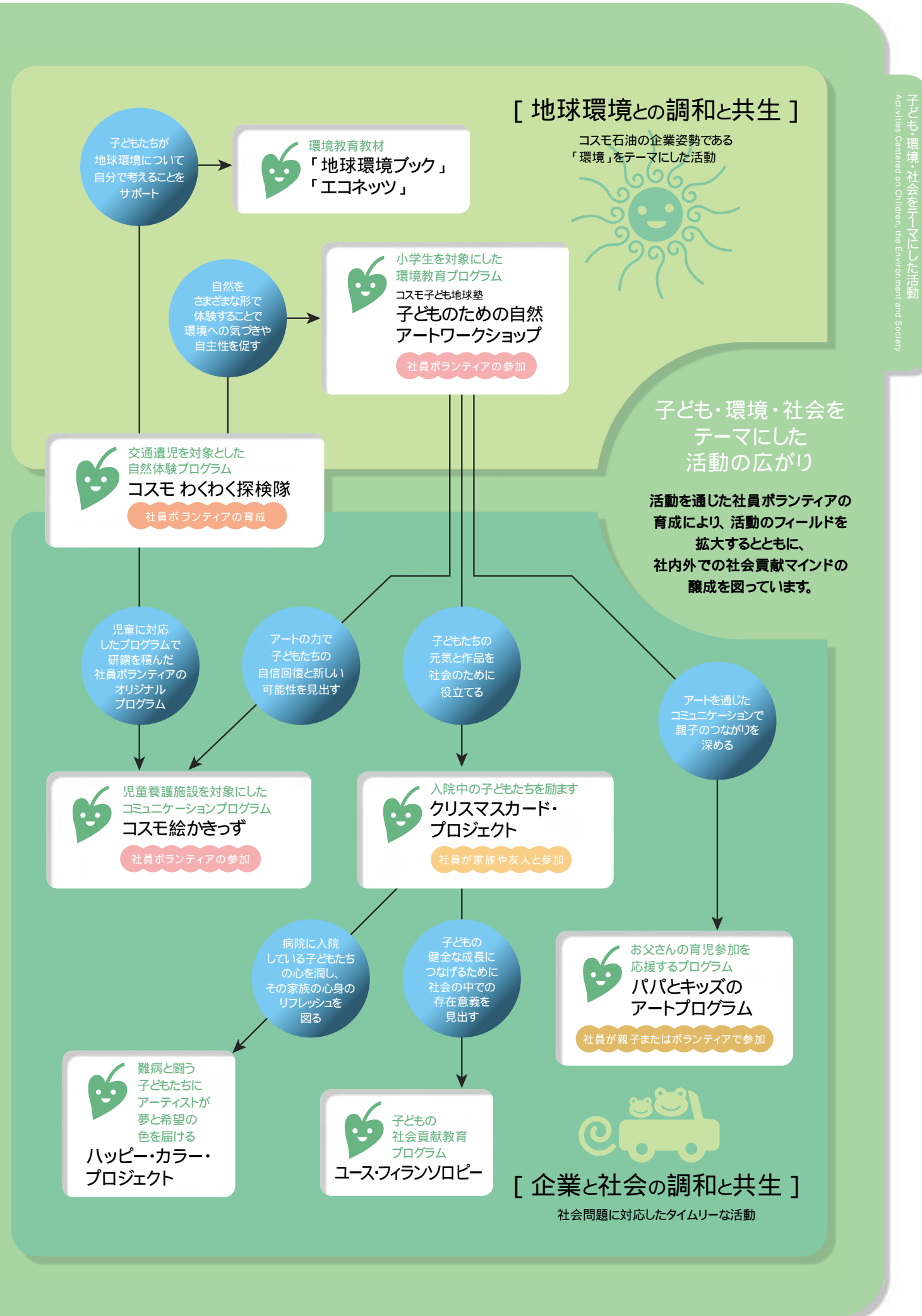
コスモ石油が主催する社会貢献プログラム「コスモわくわく探検隊」は、1993年にスタートしました。コスモ石油が主体となって、NPOの協力のもとにプログラムを企画・運営することで、子ども向けプログラムづくりのノウハウを蓄積。2002年にスタートした「子どものための自然アートワークショップ」や、2006年にスタートした「パパとキッズのアートプログラム」などへと展開していきました。

社員参加を促し、  
社員ボランティアのスキルを向上。

社員が活動に参加することで、ボランティア活動に対する社員のスキルが向上します。「コスモわくわく探検隊」に参加した社員ボランティアは、現在300名以上。「子どものための自然アートワークショップ」をはじめ、さまざまな活動をサポートしているほか、養護施設の子どもたちを元気づけるためのプロジェクト「コスモ絵かきっず」は、社員ボランティアが中心になって運営されています。

活動を継続的に実施し、  
タイムリーな活動へと展開。

継続的に活動を行うことで、社内外での理解や認知が高まり、社会貢献マインドが醸成されます。さらに、継続的な活動を通じて得たノウハウや人材、外部とのネットワークを基盤に、社会問題にタイムリーに対応したプログラムを展開することが可能になります。地球環境をテーマにした「子どものための自然アートワークショップ」から、養護施設の子どもたちを対象とした「コスモ絵かきっず」、父親の育児参加支援を目的とする「パパとキッズのアートプログラム」が生まれ、さらに入院中の子どもたちへ楽しい時間をプレゼントするプロジェクトとして、2008年度は「ホスピタル・ドリーム・プロジェクト」、2009年度は「ハッピー・カラー・プロジェクト」を展開しています。





コスモ子ども地球塾  
**コスモわくわく探検隊**  
Cosmo Children's Earth School  
Cosmo Waku Waku Camp

交通遺児を対象にした、2泊3日の自然体験プログラムです。子どもたちの安全・健康管理のために、NPOと社員ボランティアは、本番と同じスケジュールで事前現地研修を行います。

A two-night, three-day camping program providing an opportunity for children orphaned through traffic accidents to experience mother nature. To ensure the safety and health of children, the NPO and voluntary employee participants attend a training session that is a dress rehearsal with the same program as the day of the camp.

コスモ石油は、クルマ社会と深いつながりを持っています。「コスモわくわく探検隊」は、社員ボランティアが中心になって、交通遺児の小学生を対象に、1993年から継続的に開催しているプログラムです。2009年度の第17回「コスモわくわく探検隊」は、「森の奥には何がある？ みんなの力と知恵を合わせていざ、冒険へ！」をテーマに、山梨県都留市にある「宝の山ふれあいの里」で開催。初日は子どもたちが自分たちで冒険の計画を立て、2日目にはそれぞれのキャンプ地で、寝床の設営、薪拾い、食事づくりなどを行い、山の中で一晩過ごしました。

全国から集まったコスモ石油グループの社員ボランティア15名は、NPOのサポートを受けながら、3ヵ月以上の準備期間と2泊3日の研修を経てプログラムを練り上げ、当日はプログラム運営と子どもたちの安全・健康管理に努めました。

**実施/概要**

プロジェクトメンバー  
コスモ石油、アースコンシャス、(株)オフィスジェイアイ  
プロジェクト開始時期  
2008年6月  
開催場所  
山梨県都留市「宝の山ふれあいの里」  
開催日  
2009年7月30日～8月1日(2泊3日)  
参加者  
交通遺児の小学生32名、コスモ石油グループの社員ボランティア15名、外部サポートスタッフ



A/B 冒険の計画を立て、必要な道具を準備し、その使い方や火起しの仕方学びました  
C 目的地まで全ての道具を担いで行きました



今年もいい思い出ができたので、来年もいい思い出を作りたいです。

初めてのことが多かったですが、友達もたくさんできたり、色々な経験ができてとても楽しかったです。

参加児童の声

「コスモわくわく探検隊」でいろんなことを学びました。力を合わせて協力すること、自然を大切にすること、自分達で何か作ることです。そのことを生活に生かしていきたいです。

いろいろな経験をしたのでたくましくなったように感じます。料理の手伝いもよくしてくれるようになりました。

内気な性格の子がお友達ができた。来年も一緒にいこうと声をかけられたと喜んでいました。

参加児童の保護者の声

雨や虫刺されより、みんなで分けをして薪割りをした事や食事、ドラム缶風呂の準備などの作業が楽しかったようです。家の中の手伝いとは違い、責任感を持ち、緊張した集団生活はかなりに残ったようです。

川でカニをつかまえました。はじめてさわりました。うれしかったです。たくさんのおもたちができて、たのしかったです。

最後のわく探検だけ、いろんな人の話や気持ちを感じました。いろんな人にお世話になって、助けられました。ありがとうございました。

たくさんのスタッフに囲まれ、十分な指導と助け、気配りなど感謝の気持ちでいっぱいです。大変お世話になりました。来年も宜しくお願いします。

たくさんの自然にふれることができたこと。普段、く喜んでいました。普段、体験できないような遊びや、初めて会う友達との生活が本人にとっても新鮮でとても良い刺激になったと思います。



D/E 寝床作り、マキ集め、マキ割り、食事作り、ドラム缶風呂をしました  
F 冒険の様子を記録したスライドを見ながら、冒険報告をしました



G/H 参加するスタッフは、実施場所でも本番同様のスケジュールで事前研修を行いました  
I 事前研修後にフォロー研修を行い、本番の再確認をし、安全管理、子どもとの接し方を学びました

活動に参加した社員の声



コスモ石油ルブリカンツ  
本社  
篠崎友紀

入社したときから「コスモわくわく探検隊」に興味があり、コスモ石油を代表する活動だと知り、ぜひ参加したいと思っていました。最初は不安でしたが、行った人はみんな楽しかったと言っていました。でも、じつは自分は子どもが苦手ということもありました。仕事が忙しと抜けれないかな、とも思っていました。上司も職場のみんなも快く送り出してくれました。

前回の研修で、社会貢献活動について考えるトレーニングがあるので、自分が自分自身、なぜコスモ石油が社会貢献活動をしているのか考えたこともなかったし、意見を言えなかったことが残念でした。今度も活動に参加したり人の意見を聞いたりして、自分なりの答えを見つけたいと思います。

社員を活動に送り出す上司の声



コスモ石油  
大阪支店  
産業燃料グループ  
グループ長  
新村正晴

入社3年目くらいで、仕事のペースやお客様のことなどが分かってきた頃から、社会貢献活動に参加したいという思いが、人間として成長したいという気持ちの表れだとも思っています。仕事をすることも個人は成長しますが、ビジネスとして、より成長するために社会貢献活動への参加は非常に有効です。こうした活動を通じて、相手の立場で考えることや、思いやりを身に付けること、この人となら信用できる、という人に成長していただけるのだと思います。会社は、人がいいのです。

魅力的な人が増えれば、お客様に対しても会社の価値が高まります。私も自分も、クリンズエナジープロジェクトや、クリーンキャンペーンに参加しました。地元で活動が推進されるの、社員が仕事でいけないようなときは、誰かが行って人の役に立ちたい、ということ、各支店では若手社員だけでなく、管理職の人間も結構参加しています。社会貢献は、義務的に参加するのではなく、自分たちも楽しいから参加するのが理想だと思います。コスモ石油の活動は、活動の内容もタイトルも重苦しくなく、社員が参加しやすい点も良いと思います。



今日、みんなと活動できて良かったです。森は生き物と人間とのつながりを深く感じられる場所。みんなが自然についていろいろ話してくれました。うれしかったです。これからカナダと日本で自然を大切にしていきたいと思います。  
イングリッド・コイヴカンガス



## コスモ子ども地球塾 子どものための 自然アートワークショップ

Cosmo Children's Earth School  
Natural art workshop for children

自然への気づきをうながし、子どもたちが自ら行動するきっかけとなるよう、四季の自然の中で「見る・感じる・学習する」アートワークショップを開催しています。

Cosmo Oil hosts an art workshop designed for children to "observe, feel and learn" different aspects manifested by nature in four seasons, guiding them toward self-motivation to act to protect nature.

2009年度の第8回「子どものための自然アートワークショップ」は、カナダの環境アーティスト、イングリッド・コイヴカンガスさんをお迎えし、自然の美しさを再発見するワークショップを開催しました。午前中は、井の頭公園を散策し、普段は気にも留めないような木や葉っぱ、花を観察して、気に入ったものをどんどん写真に収めていきました。午後は、撮影した写真を特殊な糊を使って木の素材に転写して、夢中でアート作品づくりに取り組みました。子どもたちの作品は、8月23日～28日の間、三鷹市芸術文化センターにおいて展示されました。

**プロジェクトメンバー**  
コスモ石油、ワンダーアートプロダクション  
**プロジェクト開始時期**  
2009年2月  
**開催場所**  
東京・三鷹市芸術センター  
**開催日**  
2009年8月22日  
**アーティスト**  
イングリッド・コイヴカンガス  
**参加者**  
会場近郊の小学生26名、コスモ石油グループの社員ボランティア10名、社外ボランティアスタッフ

- A はじめにイングリッドさんから撮影のコツを教えてくださいました
- B 思い通りに作品にしたい自然を撮影しました
- C アドバイス通りになるべく自然に近づいて撮影

### 参加児童の声

- 公園にはいろんなものがあるんだ、とわかって楽しかった
- 植物をズームで撮ったら、ふだんとちがう形が見えておもしろかった
- 動いているものを撮るのがむずかしかった
- せみのぬけがらがたくさんあって、びっくりした



- D デモ作品が出来上がると「わぁ、きれい!」という歓声があがりました
- E 刷毛を使って、作品を仕上げていきました
- F イングリッドさんからアドバイスを受けながら、制作を進めました



(まさにアートのような子どもたちの作品)

一緒に活動して9年。コスモ石油らしい  
「ココロがポカポカする」活動が広がっています。

### プロジェクトパートナーの声

世の中にはいろいろな問題があります。国レベルでは解決できない問題もあります。個人やNPOというレベルでは手が出せない問題もあります。そういう時に、企業が力を貸して社会的責任を果たしてくれたら、どんなに素敵な社会になるでしょう。コスモ石油のおつきあいが始まったのは、9年前のことです。翌年には、子どもたちのための自然アートワークショップを主催されました。さらに、参加した子どもたちが、自分が社会のために役に立っていることを知るプログラムができてきたらと考え、入院中の子どもたちにクリスマスカードを送るプロジェクト「クリスマスカードプロジェクト」がスタートしました。入院中の子どもたちを励ますプロジェクトは、その後、ホストファミリー・プロジェクト、ハピビアカラプロジェクトへと発展を続けています。

近年の企業の社会貢献活動は、クロスマップされた社会問題に対して支援が集中してタフになり、宣伝ありきの社会貢献活動になってしまったり、と残念なケースもあります。コスモ石油は、パパとキッズのアートプログラムを長年続けていますが、参加した人たちはみんな、ほのほの幸せな気持ちになります。この活動は、宣伝のためではなく、こんなことが今、必要に感じないという気持ちからスタートしたのです。そして、ある日誰かが「こんな素敵なことを誰かやっているの!」と思った時に、じつはコスモ石油なのだから、ことを知って、広がってほしい。これなら活動の輪もブレない。本当に社会のためになることができます。大切なのは、その企業らしいことを長く続けていくことです。これからも、継続性と厚みのある活動を一緒に広げていきたいと思います。

ワンダーアートプロダクション  
代表/アートプロデューサー  
高橋雅子





## クリスマスカードプロジェクト

Christmas Card Project

コスモ石油グループの社員とその家族や友人が、入院中の子どもたちにメッセージを送って励ますプロジェクト。  
コスモ石油主催のプログラムに参加した子どもたちもメッセージを送っています。

A program providing an opportunity for Cosmo Oil Group employees and their families and friends to send messages of encouragement to children hospitalized during Christmas. Children participating in the Cosmo Oil-hosted program also send their messages.

「子どものための自然アートワークショップ(9ページ)」に参加した児童の作品をモチーフに制作したクリスマスカードに、参加した子どもたちや、コスモ石油グループの社員や家族、友人などが、励ましのメッセージを添えて病院にお送りしています。第7回となった今年は、全国の16の病院に、合計1,515枚のカードをお届けしました。各病院の医療スタッフの方々からも、毎年楽しみにされているとの声が寄せられています。



## ハッピー・カラープロジェクト

Happy Color Project

難病と闘う子どもたちに、素敵なアーティストが夢と希望の色を届けています。

Wonderful artists send heart-warming gifts in colors full of dreams and hopes to children in hospitals to aid them in their fight against disease.

「クリスマスカードプロジェクト」がもとになって、入院している子どもたちを励ます「バッピードールプロジェクト」「ホスピタル・ドリームプロジェクト」、そしてこの「ハッピー・カラープロジェクト」が生まれました。小児がんをはじめとする小児難病と闘っている子どもたちのいる現場へ、アーティストのMAYA MAXXさんが訪れ、一緒に絵を描きながら無限の色と輝きの時間を届けるプロジェクトです。2009年度は、独立行政法人 国立病院機構 下志津病院と福島県立医科大学附属病院の2カ所で開催しました。



180cm x 540cmのキャンバスいっぱいには描きました

プロジェクトメンバー  
コスモ石油、ワンダーアートプロダクション、各病院関係者  
プロジェクト開始時期  
2009年7月  
開催日  
2009年9月15日 独立行政法人 国立病院機構 下志津病院(千葉県)  
2009年12月3日 福島県立医科大学附属病院(福島県)  
ナビゲーター  
MAYA MAXX  
参加者  
入院中の子どもやその家族、病院関係者

実施概要



## ユース・フィランソロピー

Youth Philanthropy

子どもたちが、社会を良くするために、自分にできることを学ぶプログラムです。  
小学生向けの先駆的プログラムの実施や、米国の好事例の紹介などを通じて、日本でのユース・フィランソロピー普及に取り組んでいます。

A program providing an opportunity for children to learn what they can do to improve society. Implementation of the pioneering program for elementary school children and introduction of good examples in the U.S. to promote the wide acceptance of youth philanthropy in Japan.

米国などで活発に行われている本来のユース・フィランソロピーでは、子どもたちがリーダーシップと創造性を発揮して、自らの責任のもとにプロジェクトを実行し、コミュニティの発展に役立てることが重要な要素となっており、子どもたち自身が必要な助成金申請を行う例も多く見られます。コスモ石油は2005年、日本初のユース・



フィランソロピー・プログラムとして、小学生がNPOを体験・取材し、助け合いの必要性について学ぶプログラムを実施。また2006年度以降は、米国での先進的好事例の収集や情報発信などを行い、2008年度には「ユース・フィランソロピー～子どもが自分の社会的存在意義を知るプログラム～実施報告書」を発行しました。  
ユース・フィランソロピーは、2008年度をもって活動を休止しました。



## 小学生向け環境副読本「地球環境ブック」

Earth Environment Book

地球環境を守るために活動している人々のメッセージを伝える本です。

A book of messages of people engaged in activities for protecting the environment of the Earth.

小学生を対象にした「地球環境ブック」を2002年に発行。希望者に無料で配布しています。  
(教育関係者に限定、送料はご負担いただいています)

お申し込みアドレス

<http://www.cosmo-oil.co.jp/company/publish/earthbook/index.html>



## Webコスモ子ども地球塾エコネッツ

"Cosmo Children's Earth School 'econets' website

地球環境を守るためにはどうすればいいか、一緒に考える環境教育 Web サイトです。

An environmental education website where children work together to consider how to protect the Earth's environment.

環境保全に取り組む人の活動とメッセージを中心に、「石油と地球温暖化」など環境教育に役立つ情報や、実際に参加できる活動などを紹介しています。

エコネッツは、2009年度をもって終了しました。





## パパとキッズのアートプログラム ~ 世界で たった1つの絵本 ~

Art Program for Daddies and Kids Part 1  
"Unique Picture Book"

Part 1



父子のコミュニケーションから生まれた数々の絵を、一冊の絵本にするプロジェクトです。アーティストのMAYA MAXXさんをナビゲーターに、各地の美術館などのスタッフと社員ボランティアが、父子のコミュニケーションをサポートしました。



A program designed to develop an art book into which a number of pictures drawn through communication between fathers and their children are compiled.

As the program is held at museums in various parts of Japan and is navigated by MAYA MAXX, an artist, the museum staff and Cosmo Oil employee volunteers provide support for communication between fathers and children.

「パパとキッズのアートプログラム」は、少子化の原因の1つといわれる「父親の育児不参加」を解消するきっかけとなるような、父子のコミュニケーションを深めるプログラムづくりを模索していたことと、子育て世代の男性社員から「休日はボランティア活動に参加しづらい」という声があったことから、その両方を満たす活動として生まれました。

2005年度から2007年度にかけて開催した「パパとキッズのアートプログラム part1」では、「パパも昔は子どもだった」をテーマに、お父さんが子ども時代のエピソードを語り、子どもがそれを絵にしていってワークショップを、コスモ石油の支店所在地で全国的に展開。アーティストのMAYA MAXXさんをナビゲーターに、開催場所を提供していただく美術館・博物館のスタッフと、コスモ石油の社員ボランティアが、プログラムを運営しました。参加費用として500円をいただき、当社が同額をマッチングし、NPOファミリーハウスに寄付しました。



2006年3月の東京を皮切りに、全国9カ所の美術館・博物館で実施しましたが、2007年8月26日の愛媛県松山市での開催をもってpart1の全プログラムを終了しました。2008年3月に、作品を「世界でたった1つの絵本」に仕上げ、参加いただいた方々にプレゼントしました。

プロジェクトメンバー

コスモ石油、ワンダーアートプロダクション(株)オフィスジェイアイ  
財団法人三鷹市芸術文化振興財団・三鷹市美術ギャラリー、国立民族学博物館、  
北海道立近代美術館、福岡市文化芸術振興財団、仙台市博物館、  
高松市美術館、広島県立美術館、名古屋ポストン美術館、愛媛県美術館

プロジェクト開始時期

2005年10月

開催場所

コスモ石油の支店所在地

開催日

2006年3月・東京、5月・大阪、10月・札幌、福岡

2007年3月・仙台、5月・高松、6月・広島、7月・名古屋、8月・松山

ナビゲーター

MAYA MAXX

参加者

小学1~4年生の児童とその父親(東京:21組、大阪:19組、札幌:16組、福岡:15組、仙台:27組、高松:25組、広島:22組、名古屋:17組、松山:31組) コスモ石油グループの社員ボランティア延べ33名

実施概要



## パパとキッズのアートプログラム ~ 世界で たった1つのかたち ~ with ノッポさん

Part 2

Art Program for Daddies and Kids Part 2  
"Unique Shape Creation" with Noppo-san

2005年度から2007年度に実施した「世界でたった1つの絵本」シリーズに続き、2008年度より「世界でたった1つのかたち」シリーズを展開しています。幅広い世代に愛されているノッポさんをナビゲーターに、父子がコミュニケーションを楽しみながら参加できるプログラムです。各地の美術館などのスタッフと社員ボランティアが、運営をサポートしています。

Following the serial program of "Unique Picture Book" from FY2006 to FY2007, a new series of the "Unique Shape Creation" program started in FY2008. Using Noppo-san, a Japanese actor and writer popular across generations in Japan, as its navigator, the program allows fathers and their children to join it while enjoying conversation together. The program is supported by art museum staffs across Japan and Cosmo Oil employee volunteers.

「パパとキッズのアートプログラム ~ 世界でたった1つのかたち ~」は、盛りだくさんのプログラムです。まず、ノッポさんと歌のお姉さん・古家貴代美さんの音楽に合わせたあそびでリラックス。次に、ゴン太くんの生みの親である枝常弘さんが登場し、作品づくりのデモを行います。お父さんと子どもは、それぞれのかたちを大きな紙に写し取り、お互いを見つめながら、顔や服を描き込んで等身大の分身をつくります。作品をつくった後は、ノッポさんの絵本の読み聞かせがあり、最後に絵本のストーリーに合わせて、幅約5メートルの紙に、手と足を使って親子一緒にペインティングしました。

2009年度は、福岡・名古屋・高松・大阪の4カ所で開催。Part1と同様、参加費用として500円をいただき、当社が同額をマッチングし、NPOファミリーハウスに寄付しました。

プロジェクトメンバー

コスモ石油、ワンダーアートプロダクション(株)オフィスジェイアイ  
広島県立美術館、世田谷美術館、北海道立近代美術館、仙台市博物館  
福岡市博物館、名古屋ポストン美術館、高松市美術館、キッズプラザ大阪

プロジェクト開始時期

2008年3月

開催場所

コスモ石油の支店所在地

開催日

2008年7月・広島、8月・東京、11月・札幌、2009年2月・仙台

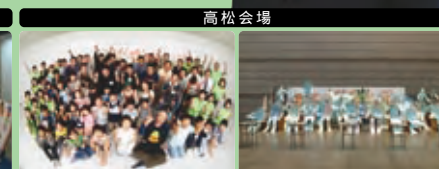
2009年6月・福岡、8月・名古屋、10月・高松、11月・大阪

ナビゲーター

高見のつば、枝常弘、古家貴代美

参加者

参加者: 小学1~4年生の児童とその父親(広島:30組、東京:19組、札幌:24組、仙台:25組、福岡:24組、名古屋:18組、高松:22組、大阪:26組) コスモ石油グループの社員ボランティア延べ32名



とても楽しかったです。息子の成長を改めて感じる事が出来て非常に嬉しく思いました。

同じ作業をしていつもより近くに感じられました。とてもよかったです。

とても楽しい一時を過ごすことができました。子どもよりも熱心だったかもしれません。

親子で役割分担し、一緒に作業したのは初めてでしたが、とても楽しく、子どもを頼りなく感じました。

気がつくとも親子も遊びを取り組んでいた事に驚きました。親子いっしょに夢中になったことがとても楽しかったです。

楽しかったです。子どもにアドバイスしながら作るはずが子どもが現場カンクの様に指示をしてこき使われてしまいました。

参加したお父さんたちの声



A ノッポさんと遊びながら、父子のコミュニケーションを深めました  
B デモ制作では、制作ポイントを楽しく説明  
C 「どんなポーズにする?」会場のあちこちで相談する父子の声が飛び交っていました  
D 様子を見守りながら、父子に話しかけアドバイスするノッポさん  
E もうすぐ完成。「パパ、がんばって!」

親と子今回は八咫を三時  
間余も共同作業に取り組  
むのですか  
ら、否応  
なく相棒  
としての会  
話を交わさな  
りやなりません  
のうちは、ち  
よいとパパか  
ら  
ソッポ向きの  
女の子が十分  
とパパも、そ  
うじゃないで  
と言い始め、  
「ア」なんて  
いると、私ホ  
ントに嬉しい  
です。

高見のつばさん







# コスモ絵かきっず

Cosmo Ekakids

楽しく遊びながら、元気になってもらいたい！  
養護施設の児童を励ますコミュニケーション・プログラムです。

社員ボランティアが中心になって推進しています。

Have a great time and get well soon!  
A communication program designed to encourage children in child-care institutions.  
Employee volunteers take the lead to promote the program.

家庭内暴力などにより、保護者がありながら児童養護施設で暮らす子どもたちが増えており、東京都だけでも3,000名以上に上っています。コスモ石油は、こうした子どもたちが、元気と自信を取り戻すきっかけの一助とすべく、セラピー的な要素を盛り込んだ「コスモ絵かきっず」を継続的に開催しています。2009年度は、5月16日に山梨県都留市「宝の山ふれあいの里」を舞台に、自然豊かな山の中で「泥田んぼ遊びと滝のカーテン裏探検」を実施。9月26日には、コスモ石油の社員が講師となり、折り紙ワークショップ「みんなで大きな折り紙を折ろう!」を実施しました。また12月19日には、フラワーアレンジメント講師の資格を保持する社員が講師となり「クリスマスフラワーアレンジメント」を行いました。

プロジェクトメンバー  
コスモ石油、アースコンシャス、(株) オフィスジェアイ

プロジェクト開始時期

随時

開催場所

山梨県都留市「宝の山ふれあいの里」、東京都内の児童養護施設

開催日

2009年5月16日「泥田んぼ遊びと滝のカーテン裏探検」(社員ボランティア:7名)

2009年9月26日「みんなで大きな折り紙を折ろう!」(社員ボランティア:12名)

2009年12月19日「クリスマスフラワーアレンジメント」(社員ボランティア:11名)

参加者

養護施設の児童、コスモ石油グループのボランティア延べ30名

実施概要

E/F「クリスマスフラワーアレンジメント」プロジェクト



同じ材料でも、それぞれの  
子どもの個性とこだわりが  
表れたツリーに  
なりました



A/B「泥田んぼ遊びと滝のカーテン裏探検」プロジェクト



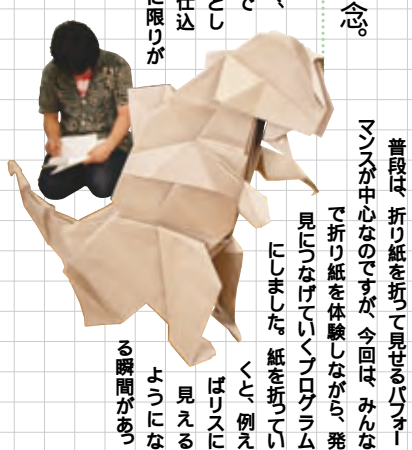
C/D「みんなで大きな折り紙を折ろう!」プロジェクト



社員  
ボランティア  
の声

社会貢献活動が根付いているので、活動がスムーズに運ぶ一方、こだわり切れないのが残念。

コスモ石油の活動は、「絵かきっず」で折り紙アーティストとして参加したのが初めてでしたが、それまでも地域イベントなどをしており、ボランティア活動には馴染みがありました。コスモ石油の社員ボランティアは、長年活動していることもあり、ボランティアの多い方が多く、活動をスムーズに進めることができると感じました。一方、会社としての活動なので、プログラムの仕込みなど、下準備にかかる時間に限りがあるのが大変でした。



普段は、折り紙を折って見せるパフォーマンスタ中心なのですが、今回はみんなで折り紙を体験しながら、楽しんでいくプログラムにしました。紙を折っていくと、例えば、見ると見える瞬間があるように、それが折り紙の醍醐味なのです。当日は、まず、みんなの前で紙を折りながら、「これ何に見える?」というゲームをしました。カンのいい子は、最後の折の前、それが何になるかを当てることができました。さらに4チームに分かれて、2メートル四方の大きな紙で巨大シラを折ったり、折り紙ロボットを飛ばしたり、子どもたちも、社員ボランティアのメンバーも楽しんでくれたようです。



コスモ石油  
海外事業部  
ALA事業センター  
担当センター長  
農学博士  
西川誠司



社員ボランティアが受付や会場の片付けなどをサポートしました



# チャリティ・ジャズ・コンサート

Jazz charity concert

NPOファミリーハウスとNPOグローヴィル、魚籃寺、コスモ石油のコラボレーションで、チャリティ・ジャズ・コンサートを開催しました。

NPO Family House, NPO Glovill, Gyoran-ji Temple and Cosmo Oil collaborated to jointly hold a jazz charity concert in Tokyo.

このコンサートは、「パパとキッズのアートプログラム(13ページ)」でネットワークが広がったNPOファミリーハウスと、2004年から活動を協賛していたNPOグローヴィルとのネットワークがもたれて継続的に開催されています。寄付支援先であるNPOファミリーハウスは、難病で長期入院を余儀なくされる子どもたちの家族が滞るための施設をボランティアで運営する組織です。コンサートを主催するグローヴィルは、先駆的音楽の普及と教育をめざし活動しているNPOで、海外から来日するアーティストから、社会的意義のある演奏機会を持ちたいとの要望を寄せられていました。さらに、コンサート会場は、自らファミリーハウスを提供されている東京都港区・魚籃寺ファミリーハウスおさかなの家(山田智之ご住職のご好意によりご提供いただき、昨年に引き続き魚籃寺本堂での開催となりました。コスモ石油は、コンサートの開催費用を負担するとともに、社員ボランティアが、会場設営の準備や来場者の案内など、当日の運営をサポートしています。2009年11月30日に開催した第3回目となるコンサート「Jazz Night@魚籃寺」には、平日の開催にも関わらず92名の来場者にお越しいただき、大人2,000円、高校・大学生1,000円の入場料と、来場者からの寄付金を合わせた104,210円をNPOファミリーハウスへ寄付しました。

2009年6月6日に予定してありましたがチャリティ・ジャズ・コンサートは、関東地方で新型インフルエンザが発生したため、中止とさせていただきます。

プロジェクトメンバー  
コスモ石油、NPOグローヴィル、NPOファミリーハウス  
開催場所  
魚籃寺(ファミリーハウスおさかなの家)  
アーティスト  
ゲートクラッシュ

プロジェクト開始時期  
2008年5月  
開催日  
2009年11月30日  
後援  
オランダ王国大使館

実施概要



## お客様とともに 進める 環境保全活動

(コスモ石油エコカード基金による活動)

Environmental protection activities being promoted together with customers

(Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fund)

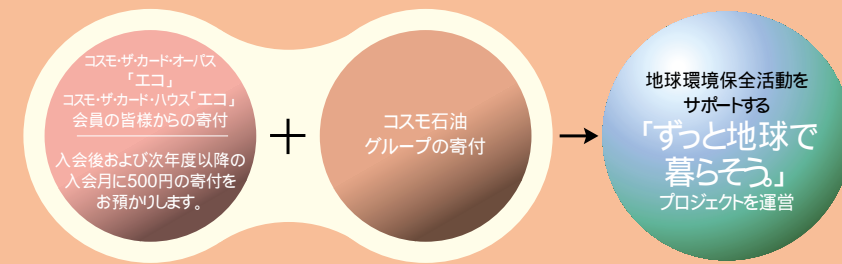
お客様とコスモ石油が  
一緒になって進めている活動です。  
「ずっと地球で暮らそう。」を合言葉に、  
持続可能な社会の実現と、  
次世代の環境教育をテーマに  
支援活動を展開しています。

These are the activities that we at Cosmo Oil have been promoting together with our customers. Under the motto "Living with Our Planet," we are rolling out supporting activities using the themes of realizing a sustainable society and providing environmental education for future generations.

## お客様と一緒に、環境保全活動を支援する仕組みを構築

コスモ石油の使命は、石油などのエネルギーを社会に安定供給することです。しかし、ガソリンなどをつくる時に、またお客様の使用時に、環境に大きな負荷をかけていることも事実です。そこで、お客様と一緒に環境保全に取り組むことはできないだろうかと考え、「コスモ石油エコカード基金」を設立。コスモ石油のク

レジットカード(コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」)会員のお客様からお預かりした寄付金に、コスモ石油グループの売上の一部を加え、NGO/NPO、政府や地域社会の方々の協力を得て、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開しています。2009年12月現在、会員数は85,658名に達しています。



### 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 1

CO<sub>2</sub>の排出急増や地球温暖化による深刻な影響が予想される地域への支援

石油と関わりの深い「地球温暖化」をテーマに、CO<sub>2</sub>の排出急増や深刻な影響が予想される途上国などの支援を行っています。途上国の環境問題は、食料不足が引き起こす貧困問題や、人口増加など

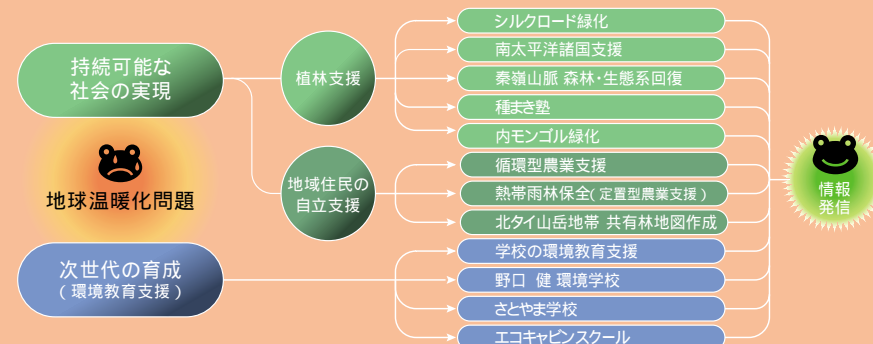
と密接な関係があります。私たちは、現地の状況に詳しいプロジェクトパートナーや、現地の人たちと何度も話し合い、プロジェクトをつくりあげています。

### 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 2

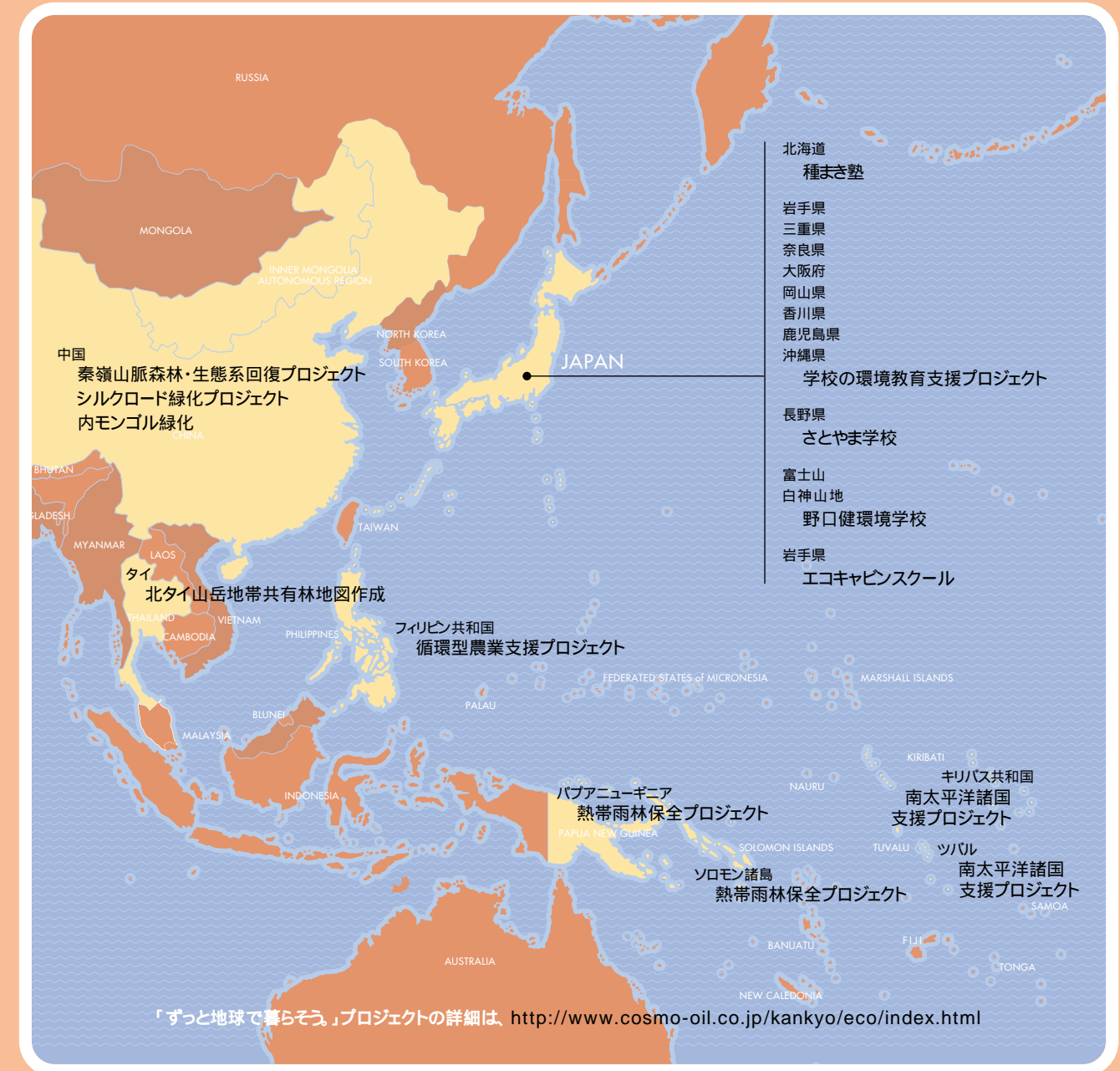
次世代を担う若年層への環境教育支援

国内では、次世代を担う子どもたちの環境教育支援に力を入れています。環境教育プロジェクトの提供や、学校での環境教育の普及に向けた支援活動を行っ

ています。また、多くの方に環境について考えていただけるよう、プロジェクトの活動内容をWebなどで情報発信しています。



## 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト 活動マップ



- 北海道 種まき塾
- 岩手県
- 三重県
- 奈良県
- 大阪府
- 岡山県
- 香川県
- 鹿児島県
- 沖縄県
- 学校の環境教育支援プロジェクト
- 長野県 さとやま学校
- 富士山 白神山 野口健康学校
- 岩手県 エコキャビンスクール

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの詳細は、<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/index.html>



Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fund

## 2009年度のトピックス

New topics in 2009

環境問題は、一人ひとりが地球市民という意識を共有し、それぞれの地域で取り組んでいくことが重要です。コスモ石油は、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの展開を通じて、海外の支援地域の皆様や、大学やNPOなどのプロジェクトパートナー、そして支援活動とともに展開するコスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆様との交流を深めています。

It is important that each and every one of us shares in the awareness of being a global citizen to work on environmental issues in our respective regions. Through the rollout of the "Living with Our Planet" project, we have been furthering exchanges with people in the regions that we support outside Japan, people from universities, NPOs and other project partners, and the Cosmo The Card "Eco" cardholders who we work with in these support activities.



## 熱帯雨林保全プロジェクト

Tropical Rainforest Conservation

【活動地域】パプアニューギニア/ソロモン諸島  
【プロジェクトパートナー】財団法人オイスカ/NPO法人APSD

パプアニューギニアとソロモン諸島は、熱帯雨林に恵まれた島国です。しかし、近年の人口増加などにより、従来から行われていた焼畑農業は、森の再生スピードを超えて広がりはじめました。当プロジェクトは、CO<sub>2</sub>の吸収源である熱帯雨林の保全と、地元の人たちの生活安定の2つを目的に、焼畑農業から持続可能な定置型有機農業への移行・普及を支援しています。

2009年度、パプアニューギニアでは定置型有機農業の普及に向けて、地域農民指導センターを開設しました。また、野生動物の保護に向けて、野生動物園監視員用宿泊施設を改修し、熱帯原生林の調査研究を実施しました。

ソロモン諸島では、2008年度に引き続き、循環型有機農業の研修を実施したほか、生産青果物の加工・販売への取り組みも継続しています。



ソロモン諸島マライタ州農業委員会より、定置型有機農業の技術指導支援に対して、感謝状とシェルマネーネックレスが届きました。

コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆様へ

ソロモン諸島の中で最も人口が多いマライタ州は、耕作地が狭く、さらに商業伐採や焼畑農業、気候変動による森林減少により、食糧不足の危機に瀕しております。

最近では、地震、津波、洪水など今まで経験したことのない規模の自然災害に加え、昨今の世界的な金融危機の影響も加わり、住民の生活は厳しい状態にあります。

そのような状況下、貧困の拡大を防ぐためにも、次世代を担う青少年へ農業を普及させるための研修プログラムを実施しております。

その主な運営資金はコスモ石油エコカード基金からの寄付金です。

私たちはコスモ石油エコカード基金の長年に渡る支援に大変感謝しております。

今後は、現状の研修プログラムの質を高めながらプロジェクトを継続し、焼畑農業から定置型有機農業へ移行させるとともに、さらに他の地域にもこの活動を広げていきたいと考えております。



シェルマネー(貝貨)は、マライタ州に残る伝統文化です。現在でも、冠婚葬祭などの特別な贈り物として使われています。今回は、長年にわたるコスモ石油エコカード基金の温かいご支援に感謝し、特別にコスモ石油のロゴを入れてつくりました。



## 秦嶺山脈 森林・生態系回復プロジェクト

Ecosystem Recovery Project of Forest

【活動地域】中国 【プロジェクトパートナー】西北大学 生命科学学院

秦嶺山脈は、絶滅危惧種であるキンシコウやジャイアントパンダなどが生息する地帯として、世界的にも知られています。しかし、20世紀後半の森林伐採により、森は荒廃し、生態系の破壊が進みました。このプロジェクトは、豊かな森林生態系の回復をめざして、森林を分断する林道跡地に植林し、野生動物の生息環境改善に取り組んでいます。2009年度は、2008年度に続き、同山脈北側に放置されている14kmの林道跡地に11,000本の苗木を植林しました。また、キンシコウやジャイアントパンダなどの野生動物の生態観察・研究を継続しています。



## 種まき塾

Seed Planting School

【活動地域】北海道  
【プロジェクトパートナー】LLP ぶらの種まき塾

「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、北海道の富良野で、森林生態系の回復に向けた苗木の供給と、環境教育に取り組んでいます。山からタネや実生(みしょう:タネから発芽したばかりの若い木)を採取し、苗木で育て、地元で植林する人たちに提供します。また、苗木の育成や植林活動を通じた環境教育プログラムも実施しています。2009年度は、コスモ・ザ・カード「エコ」会員向けのエコツアーを実施。山からタネや実生を採取し、育苗・植林の環境体験学習を行いました。

プロジェクト  
パートナーの  
声



西北大学生命科学学院  
教授  
李 保国

秦嶺山脈では商業伐採により、キンシコウやジャイアントパンダの生息地が荒らされ、絶滅が危惧されています。私たちは2006年度からコスモ石油エコカード基金による支援を受けており、商業伐採目的で作られた木を植えることにより野生動物が行き来できるような生息地の回復に努めています。2008年度は西北大学生命科学学院以下、西北大学の学生と付属の中等学校の学生がボランティアとして植林に参加しました。

また政府と共に地元住民を雇い、植林だけでなく、苗木が土地に根付くように管理、保護活動をしており、また、これらの活動は地元新聞やテレビでも取り上げられました。さらに西北大学や中等学校では、「コスモ石油エコカード基金環境プロジェクト」とキンシコウ保護と題し、ポスターや写真を展示しました。また西北大学では、キンシコウの行動生態学、社会生態学の科学的な研究を継続的に行っており、7件の研究記事が国際ジャーナルに掲載されました。

西北大学の学生・附属中学の生徒、地元の人々へと活動の環が広がっています。

プロジェクト  
を推進する  
社員の声



コーポレート  
コミュニケーション部  
環境室  
小泉真希子

「種まき塾のエコツアー」は2007年度に続き、今回で3回目になります。エコカード基金の活動は、会員の皆様の寄付により成り立っていますから、実際にどういった活動をしているのか体験していただくことも大事です。ホームページで参加者を募集し、エコカード会員の方々とそのご家族、ご友人、合計25名の方々と、苗木ももことになる実生(みしょう)の採取や植林活動、フォレストウォークなど、2泊3日のエコツアーを体験していただきました。参加者にお話を伺うと、ガーデニングを行うなど、普段から自然に親しんでいる方も多くことが分かり印象的でした。

環境保全は、実際に体験することが大事。そのためにも、エコツアーを継続していきたい。

自分自身も「コスモわくわく探検隊」や「子どもための自然アトワークショップ」に参加した経験がありますが、社会や環境のために何かやりたいと考えていても、そのための機会が少ないのが現状です。世の中には情報があふれていますが、環境保全に体験し、その大変さを知る機会が大事です。ひとりでも多くの方に環境の大切さを体験していただくために、今後もエコツアーを続けていきたいと考えています。環境保全や社会貢献は、今後ますます求められると思うので、企業としても活動を継続していくことが大切だと思っています。

# 「ずっと地球で暮らそう」プロジェクト

“ Living With Our Planet 'Projects-1

CO<sub>2</sub>の排出急増や深刻な影響が予想される地域への支援  
Support for regions where a sharp rise in CO<sub>2</sub> emissions is anticipated to result in severe damage.



## シルクロード緑化プロジェクト

Silk Road Afforestation

[活動地域]中国 [プロジェクトパートナー]NPO法人2050

沙漠化の進行防止をめざして、地域住民や地元政府とともに、シルクロードの黄土(オウド)高原の植林を推進しています。2009年度も引き続き、約246,500本ものサジーの苗木を植林しました。サジーの実は経済価値が高いため、生活水準の向上にもつながります。



## 循環型農業支援プロジェクト

Sustainable Farming Support

[活動地域]フィリピン共和国 [プロジェクトパートナー]NPO法人2050

キャッサバの葉を再利用する循環型農業やエリ蚕養蚕を軸に、地域の持続的な発展を支援しています。2009年度は、現地団体の自立に向けたエリ蚕製品の品質管理とマーケット開拓を中心に活動を展開しました。



## 南太平洋諸国支援プロジェクト

South Pacific Countries Support

[活動地域]キリバス共和国/ツバル  
[プロジェクトパートナー]ISME / NPO法人Tuvalu Overview

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する島嶼国を支援しています。2009年度、キリバス共和国では、65人の児童とともに7,850本のマングローブを植林しました。また、ツバルでは、フナファーラ地区に約3,000本のマングローブを植林したほか、子どもを対象にしたゴミに関する啓蒙活動を実施しました。



## 内モンゴル緑化

Inner Mongolian Afforestation

[活動地域]中国内モンゴル [プロジェクトパートナー]内モンゴル緑化の会

沙漠化が急速に進む中国の内モンゴル自治区において、現地中学校にサジー植林基地を設置し、植林による沙漠化防止と環境教育に取り組んでいます。2009年度は、当基金での支援金にて作成した環境教育冊子を資料とし、小学校低学年、高学年、中学2年生を中心に環境教育を実施しました。



## 北タイ山岳地帯共有林地図作成

Community Forest Map Development in the Northern Mountainous Region of Thailand

[活動地域]タイ  
[プロジェクトパートナー]Link・森と水と人をつなぐ会

タイ北部の山岳地帯では、少数民族が森林の中で豊かな暮らしを営んできました。しかし、度重なる森林伐採の被害を受けたため、タイ政府は森林保護政策を打ち出し、住民の住む森を国有林としたため、居住できなくなりました。このプロジェクトは、住民が生活基盤を取り戻すために、国有林を再び「共有林」に戻し、住民の持続可能な森林活用を支援することで、貧困問題の解消につなげることを目的としています。2009年度は、タイの森林局と交渉可能な地図作成を7村にて開始しました。



# 「ずっと地球で暮らそう」プロジェクト

“ Living With Our Planet 'Projects-2

次世代を担う若年層への環境教育支援  
Environmental Education Support at Schools



## 学校の環境教育支援プロジェクト

Environmental Education Support at Schools

[活動地域]岩手県、三重県、奈良県、大阪府、岡山県、香川県、鹿児島県、沖縄県  
[プロジェクトパートナー]社団法人日本環境教育フォーラム

環境教育プログラムの提供や、環境教育サイト「EE kids」を活用した環境教育のプラットフォームづくりなど、学校での環境教育を支援しています。2009年度は、2008年度と同様、岩手県から沖縄まで全9カ所の小中学校の環境教育プログラムを支援しました。



## さとやま学校

Satoyama(Community Forests) Preservation School

[活動地域]長野県 [プロジェクトパートナー]NPO法人APSD

耕作が放棄された棚田や、里山などを舞台に、環境保全活動や体験学習プログラムの開催、出張授業など、次世代を担う子どもたちへの環境教育に取り組んでいます。2009年度も引き続き、農地の再生・保全とともに、次世代を担う人材教育として、3校約390名を対象に、食糧・農業教育を実施しました。



## 野口 健 環境学校

Noguchi Ken Environmental School

[活動地域]富士山、白神山  
[プロジェクトパートナー]NPO法人セブンサミツ持続社会機構

環境保全に向けて自ら行動し、情報発信できる子どもたち「環境メッセンジャー」の育成をめざしています。2009年度は、白神山と富士山で環境学校を開催しました。



## エコキャビンスクール

Eco-cabin school

[活動地域]岩手県 [プロジェクトパートナー]NPO法人岩手子ども環境研究所

子どもたちに、エコキャビン(自然エネルギーで生活できる家)でエコロジカルな生活を体験してもらい、地球温暖化防止に向けた行動を喚起することを目的にしたプロジェクトです。2009年度は、エコキャビンに、太陽光パネルで発電した電気で灯すLED照明器具を取付け、自然エネルギーについて学びました。



お楽しみながら進める環境保全活動  
Activities through the Cosmo Oil Eco Card Fun



## 環境メッセージの発信

Sending Out an Environmental Message

環境をテーマにしたイベントを開催したり、ラジオ、ホームページ、出版物などで情報を発信することによって、環境について考え、行動する機会を拡げています。

Cosmo Oil holds events under the theme of the environment and provides relevant information via radio, the website and publications to offer opportunities for people to consider and act toward environmental protection.



コスモ アースコンシャス アクト

## コスモ アースコンシャス アクト

cosmo earth conscious ACT

全国FMラジオ局とのパートナーシップで、環境保全の仲間を増やしています。

Cosmo Oil forms partnerships with national FM radio stations to invite those sympathetic toward environmental preservation to join.

コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38局がパートナーシップを組んで、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」をテーマに展開している活動です。一人ひとりが地球のためにできることを考え、行動を起こすことを目的に、「アースデー・コンサート」や「クリーン・キャンペーン」など、さまざまな活動を実施しています。



## クリーン・キャンペーン

Clean Campaign

全国の山、川、海、湖、公園を舞台に、自然を楽しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を展開。これまでの9年間に358カ所で開催し、参加人数は延べ14万人を超えました。また

「クリーン・キャンペーン」のシンボリックなイベントとして毎年開催している「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt. FUJI」を7月18～19日に開催。アルピニストの野口健さんとともに、富士山の清掃活動とエコトレッキングを実施しました。



## アースデー・コンサート

Earth Day Concert

音楽を通じて、地球環境への熱いメッセージを伝えるコンサートを、毎年4月22日の「世界アースデー」に、日本武道館で開催しています。2009年度は、昨年のアースデー・コンサートで観客を魅了した絢香さんをメインアーティストに、サプライズゲストに小田和正さんを迎え、今回のテーマ「Mother Earth for Children～これからの20年を見つめて。」にふさわしいパフォーマンスを繰り広げました。コンサートの模様は、本年度も生中継による特別番組で、TOKYO FMをはじめとするJFN系38局と、世界29の国・地域で放送されました。



## ラジオ番組「ずっと地球で暮らそう。」

“Living with Our Planet” Radio Program

毎朝JFN各局のレポーターが、日本各地から“旬”な環境の話題を生中継。JFN系38局で、毎週月曜～金曜(午前6:40～6:45)にオンエアしています。また、定時ラジオ放送だけでなく、好きな時間に番組を聴けるPC(パソコン)とポッドキャストによる配信も行っています。



左の二次元コードから、番組をご試聴いただけます(約3分)  
2009年11月19日(木)  
オンエア分  
放送局: FM長野  
レポーター: 伊藤智佳子  
機種によっては視聴できない場合があります。



## 野口 健 講演会

Ken Noguchi Lectures

ヒマラヤや富士山の清掃活動をはじめ、稀少自然保護、環境教育などで活躍されている、アルピニスト野口健さんの講演会を全国で開催。野口さんの波乱万丈な生い立ちからエベレスト登頂までのエピソードを交えながら、環境保全の重要性についてアピールしています。



上の二次元コードから、講演をご視聴いただけます(約3分)  
機種によっては視聴できない場合があります。



インターネットムービー

## 「いま、私たちにできること」

Internet Movie Entitled “What We Can Do Now”

小学生の兄妹が環境問題を少しずつ理解し成長していく様子を描いたムービーです。

A movie describing how an elementary school boy and his sister are growing as they learn to understand environmental problems little by little.

コスモ石油エコカード基金(17～22ページ)で行っている環境活動「種まき塾」や「シルクロード緑化プロジェクト」ツバルで行っている「南太平洋諸国支援プロジェクト」での記録映像をもとに、世界各地で起きている環境問題をやさしく説明するムービーを制作し、インターネットで配信しています。このほか、「地球のためにできること」「野口健 小笠原環境学校」のインターネットムービーも配信しています。

「いま、私たちにできること」  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/netmovie/netcinema03/index.html>  
「野口健 小笠原環境学校」  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/netmovie/netcinema02/index.html>  
「地球のためにできること」  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/netmovie/netcinema01/index.html>





## 芸術・文化活動支援

Support for artistic and cultural activities

心豊かな文化的社会づくりに向けて、芸術・文化活動を支援しています。

Support artistic and cultural activities to build a considerate and cultural society.

芸術・文化活動支援  
Support for artistic and cultural activities

### その他の活動(随時)

#### 献血活動

使用済み切手、プリペイドカードの回収とNPOへの寄付

中古CD、ゲームソフト、外国紙幣などの回収とNPOへの寄付

書き損じハガキの回収とNPOへの寄付

福祉を目的とした各種バザーへの献品協力



### 新国立劇場シリーズ協賛 中学生のためのバレエ

2007年度より、新国立劇場におけるバレエ公演の年間を通じたシリーズ協賛と、健全な次世代育成支援と地域貢献を目的にしたプログラム「中学生のためのバレエ」を展開しています。

2009年5月20日には、第2回目となる「中学生のためのバレエ～白鳥の湖～」を開催し、当社製油所が所在する千葉県市原市や三重県四日市市などの中学生約1,200名が鑑賞しました。



### ～美術館・博物館へ行こう～ A Day in the Museum 協賛

芸術・文化に触れる機会を増やしていただくために、NPO美術ファンクラブが実施しているプログラムに協賛しています。2010年1月2日に東京国立近代美術館、ポーラ美術館の入館を無料に、4月4日には京都国立近代美術館の入館を無料としました。



### 大阪ヨーロッパ映画祭 ～キダーフィルム特集～協賛

ヨーロッパの子どもたちが製作した映像作品を日本の子どもたちが楽しみ、その感想を絵にして送り返すことで、子どもたち国際交流を育む活動です。大阪ヨーロッパ映画祭実行委員会が主催する活動に、健全な次世代育成支援の一助として協賛しています。今年度は、リトアニアの子どもたちが制作した短編アニメーションを、キッズプラザ大阪とクレオ大阪中央の2カ所で上映しました。



### 高見のっば氏主演音楽劇 ～三世代に贈る未来へのメッセージ～ 『ありがとう! グラスホッパー』協賛

「パパとキッズのアートプログラムPart2」(P13～14)のナビゲーターを務める高見のっば氏が演じる音楽劇～三世代に贈る未来へのメッセージ～『ありがとう! グラスホッパー』に協賛しています。これは、NHKみんなのうたでロングラン放送となった「グラスホッパー物語」を舞台化したもので、人と人とのつながりの大切さを伝えています。2009年10月の東京公演を皮切りに、2010年1月に名古屋、3月には松山で開催しました。



© NHK/NEP-TGH



### チャリティ・ジャズ・コンサート協賛

2010年3月13日、東京の聖路加国際病院で開催されたダッチ・ジャズ・トリオのコンサートに協賛しました。チケットの売上は、全額YMCA国際賛助会へ寄付され、障がいのある子どもたちのアウトドア・プログラムを実施するために活用されます。



### 千葉製油所 「コスモの森」整備計画

千葉製油所は、近隣の里山保全プロジェクトを推進しています。2008年には、千葉県と千葉臨海コンビナート企業が合意している「エネルギーフロントランナーちば推進戦略」の一環として、市原市の県有林を「コスモの森」として借り受ける協定を結び、里山の整備を開始。2008年度は、社員やその家族が参加して、下草刈りや自然体験を楽しむイベントを開催。2009年度は、2月と3月には、NPOと社員ボランティアが共同で下草刈り、枝・竹等の片付け、丸太橋の設置など、地元小学校を対象とした環境教育のフィールドとしての整備を行いました。2009年4月と9月に、自然観察や環境教育に適した「教育の森」として維持していくために、社員やその家族が参加して下草刈りを行った後、参加者交流のバーベキューを楽しみました。また2009年11月には、千葉県が制定した「美しいちばの森林づくり森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量認証制度」による認証を取得しました。今後も「コスモの森」を活用した環境教育をはじめ、地域とのコミュニケーションを強化していきます。

\* 千葉県が2009年8月に制定した制度。「コスモの森」整備計画を推進している鶴舞県有林(1.8ヘクタール)が2009年8月～2011年3月の期間に、16.8トンのCO<sub>2</sub>を吸収することが認定されました。

プロジェクトメンバー  
千葉製油所、  
NPO法人千葉自然学校  
開催場所  
千葉県市原市  
開催日  
2009年4月19日、9月26日  
参加者  
コスモ石油グループの  
社員とその家族 延べ152名



### コスモ松山石油 「コスモの森」づくり

コスモ石油グループのコスモ松山石油は、愛媛県と協定を結び「企業の森」づくりに取り組んでいます。2007年度に、サクラの苗木40本、紅葉の苗木45本を植樹し、定期的に下草刈りなど森の維持活動を行っています。2009年度は、6月と10月に、従業員やOBが参加し、下草刈りを行いました。



## 製油所 / グループ会社の活動

Refinery / Group company Activities

地域社会への貢献活動を通じて、社員、その家族、そして地域の方々とのコミュニケーションが拡がり始めています。

Activities to contribute to the growth of local communities are broadening the range of communication between Cosmo Oil employees and their families, and local residents.

製油所 / グループ会社の活動  
Refinery / Group company Activities



2010年4月発行

# コスモ石油株式会社

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル  
TEL.03-3798-3211(代表) <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

